

英語科より（中学生）

1. ご用意いただくものと配付するもの

① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

□ 授業用ノート：罫線の引いてある市販の大学ノート

4本線が引いてある『ローマ字練習帳』を用いるのは中1までを目安と考えてください。

□ ファイルやホルダ：プリントを収納するための市販のもの

毎回、複数の演習プリントが配付されます。以下のいずれかの方法で整理してください。

・「**ポケットファイル**」に入れる：20 ポケットのものを用意し、一回分を1 ポケットに収納すれば1年間で3冊で済みますが、復習するときにポケットから出さなければいけないのが難点です。

・授業用ノートにプリントを**糊**や**テープ**で貼り付ける：余白にメモを取るようにすれば、これだけを使って復習することが可能ですが、貼り付ける手間がかかります。

・「**穴あけパンチ**」でプリントに穴をあけ「**ファイル**」で綴じる：「穴あけパンチ」が2穴であれば「2穴リングファイル」に綴じ、「**ルーズリーフパンチ**」であれば「**ルーズリーフバインダー**」に綴じます。前者は安価ですが穴が破れやすく、後者は高価ですが穴は破れにくいという長短があります。授業の解説をメモした「**ルーズリーフノート**」も綴じれば、これだけで復習が可能です。

□ 筆記具：鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、ペン、マーカーなど、お好みのもの

□ 辞書：英和辞典（電子辞書可） 和英辞典（電子辞書可） 英英辞典（電子辞書可 高2頃から）

授業中に辞書を引いている時間はありませんので、自習をする場合に必要です。

▼ お薦めの英和辞典

◇ 身の丈に合った辞書

中学に入って英語を学び始めた新中1の方が、高校生用の中辞典を使っているのを目にすることがありますが、あまりお薦めできません。入門時にはそれ用の辞書を使った方が、辞書に馴染みややすいですし、辞書を使う効用も早く実感できることでしょう。一通りの文法項目が学習し終わり、なじんだ入門用の辞書が物足りなく感じてきたら、中辞典への変更を考えましょう。

入門用としては、「ジュニア・アンカー英和辞典（学研）」「初級クラウン英和辞典（三省堂）」等がお薦めです。

◇ 新しい辞書

辞典市場での競争は熾烈ですから、今生き残っている辞書は良い辞書と言えますが、お薦めの中辞典は、「**ジーニアス英和辞典 第6版（大修館）**」「**アクシス ジーニアス英和辞典（大修館）**」「**ウィズダム英和辞典 第4版（三省堂）**」「**オーレックス英和辞典 第2版（旺文社）**」「**コンパスローズ英和辞典（研究社）**」です。電子辞書や辞書アプリを購入する際にはこれらを収録しているものを選ぶと良いでしょう。

◇ 家では紙の辞書

電子辞書は携帯するには便利なのですが、「画面が小さい」「用例を読むのにボタンを押さなければならない」等、不便な面もあります。「訳語だけを探して、良さそうな訳語を適当に当てはめる」という辞書の悪い引き方が身に付いてしまうことにもなりかねません。自宅の机では紙の辞書を引いて、じっくり読むことをお薦めします。

② **Gnoble** の英語教材

□ 通常授業テキスト：原則として小ターム[4月度等]一回目の授業で配付

□ 季節講習テキスト：季節講習の一回目の授業で配付

□ 演習プリント：授業最初に配付して**演習～添削～解説**

□ 音声教材[**Gnoble Sound Laboratory**（以下GSL）]：授業で「理解」⇒ **GSL** で「身に付ける」

学年ごとに設定されているパスワードを使って、ウェブサイトから **GSL** をダウンロードし、音声トレーニング Workoutします。そのためにインターネット環境が必要です。またテキストにある QR コードを読みとって、YouTube 動画で英語スクリプトと音声を視聴することも可能です。

2. 授業の進み方と日々の取り組み

授業 × 教材 × 復習 = 伸びる学力

通常授業の流れ

◇プリントで演習(記述答案の一部を添削) ⇒ ◇プリントの解説 (中1・中2生はここでパワーリスニング※を実施) ⇒ ◇宿題の解説 ⇒ ◇新単元の導入 ⇒ ◇お帰り問題

◇プリントで演習: 英作文・文法・長文読解等のプリントが最初に配られます。その中から一部のプリントの記述答案を提出し、その場で先生が添削した答案が返却されます。

◇プリントの解説: 添削でひとり一人の課題を見極めた先生の解説に集中します。解説は双方向です。順不同に指名されるので、頭脳を最大限に活性化させて参加します。

※パワーリスニング: 独自に開発したオリジナル教材を使い、リスニング能力、発音矯正(フォニックスやリンキングも含む)、発信能力のトレーニングを行うプログラムです。英語を聴く「耳」、英語を発信する「口」、英語に反応できる脳回路をつくり、英語力の底上げを狙います。(パワーリスニングの音声は全てダウンロードすることが出来ます。α2α3クラスではGSL例文を音読します。)

◇宿題の解説: 前回宿題として課されたテキスト冊子の文法や読解の問題が解説されます。自分が出した解答の正誤を確認するだけでなく、宿題に取り組んでいた時に疑問に思ったことや、疑問にすら思わなかった新たな問題を解決できるように努めます。

◇新単元の導入: 黒板を使った双方向の授業で新出文法単元が説明されます。

(新出事項の基本例文は全てGSL化され、音声をダウンロードすることが出来ます。)

◇お帰り問題: ^{音声トレーニング}Workoutしてきた基本例文の音声^{書き取り}が教室で放送され、Dictationします。

中1、中2生の授業はダブルティーチャー制です。上記◇◇(パワーリスニング)と◇◇◇の間で前半担当の先生と後半担当の先生が入れ替わります。

英語が伸びる秘訣

①「理解」が大切

解説の時に大切なのは「理解」することです。記述問題の模範解答や先生が黒板に書いたこと話したことを「書き写す」のに懸命になると、「理解」するために使うべき脳力が割かれてしまいます。集中して解説に意識を注ぎ、「理解」した後に必要なことのみ「簡潔に書く」練習をしましょう。授業後の復習の時、解説を思い出しながら気づいたことを書き加えれば、さらに良いノートになります。

② 休まず遅れずグノに行く、Homework, Workout ちゃんとやる。

Gnoble で英語を受講して伸びるのは、欠席も遅刻もせずに【宿題⇒授業⇒復習】のサイクルを生活に組み入れている方です。一定期間継続すれば、学力は必ず伸びます。しかし、**授業を休むと**、授業中の緊張感を持った演習ができず、演習後の痒いところに手が届く解説を聞けなくなるだけでなく、その前後の【宿題…復習】の**学習サイクル全てを失うこと**になります。もちろん新単元の導入授業も受けられません。

出席できない場合は、「映像授業」を視聴しましょう。教室で受講するのと同じ効果を得るのは難しいですが、視聴しないのとは雲泥の差です。欠席した場合は、教材をウェブサイトの「映像授業」からダウンロードし次回の授業に備えましょう。次回出席時には受付に寄って、教材の現物を受け取りましょう(受け取り希望日の2営業日前までに受付へご連絡くだされば円滑にお渡しできます)。

③ 印刷教材

言語は本来音声です。**Gnoble** では **GSL** という音声教材を提供していて、これは強力な学習ツールですが、英語を「読む」「書く」際には、印刷されている教材を活用せねばなりません。大きく分けて、次の**2種類**の印刷教材を用いています。

1. プリント演習問題

授業の最初に、学年やクラス事情に応じて先生が作成した数種類の **B5 B4** の演習問題が配られます。数十分間、辞書なしで取り組みます。先生は添削や机間巡視をして皆さんの課題を明らかにし、それを皆さんが克服するのに役立つように解説をします。

欠席した場合、自分でプリントを解いて先生に提出すれば、採点添削されて、後日返却してもらえますが、授業に出席したのと同じ効果は望めません。「場の空気」は教室にいてはじめて伝わります。**Gnoble** の授業は生徒の皆さん一人ひとりと、担当の先生が一体となって作り上げるものです。貴方のいない授業は、貴方のいる授業の代わりにはなりません。

また通常授業でのプリント演習問題の「解答」は、欠席教材とともにウェブ上で配信します。必要な場合は、ウェブサイトからダウンロードしてください。

2. テキスト冊子(=宿題)

文法解説とその基本例文である **Sentences for Workout** や、**宿題となる文法・作文・読解の問題** が掲載されています。**Gnoble** 英語科が、腕によりをかけて作成し、授業での実践を通じて磨き上げてきたものです。

前回宿題として課された問題の解説は、授業の後半に行われます。高速のため、ついていくのが結構大変です。欠席した場合はもちろん、出席していたけれど聞き漏らした時には***解答を確認**しましょう。間違えた問題については、何故正答がそうなるのかを考えてください。疑問点が残れば、担当の先生に遠慮なく****質問**してください。

***次回分のテキスト巻末に解答が掲載されます。**

****前コマ**は授業開始の概ね 30 分前から、**後コマ**は授業終了後に、教室で先生に質問できます。その時間その場所であれば、事前の予約は不要です。ウェブサイトの「映像授業」からメールで質問することもできます。

日々の取り組み = 宿題と復習

英語科では、中1から高3の全てのクラスで毎週一定量の宿題を出しています。問題を解いたり、提出する英作文を書いたりといった宿題には、毎週取り組んでいただかななくてはなりません。これをやらずに漫然と授業に参加しているだけでは、英語力の向上は望めません。自宅での宿題の取り組み方の具体的な方法については、テキスト冊子の前書きをご覧ください。

宿題をしっかりとやるのは最低限のことで、英語力が伸びるかどうかは 音声トレーニング **Workout** を継続しておこなうことにかかっています。

▼中学生の **Workout**: 小ターム毎に配付するテキストの巻頭に記してある以下の勉強方法を、継続して行ってください。それで英語の基礎力は万全になります。

—— 授業で「理解」したことを「身に付ける」ための **Workout** ——

◇ 聴き込み **Listening**: 授業で理解した文法の基本例文を、テキストを見ないで繰り返し聴く(回数は全ての文が完全に聴き取れるまで)。電車の中での時間も利用する。

◇ 口まね **Retention / Shadowing**: **Retention** は、英文一本を丸ごと聴き取った後で、まねて発声する練習方法。**Shadowing** は、聞こえた英語をすぐさままねて発声する。

- ③ **Reading aloud**: ^{音読}②の Workout で耳に残っている音を利用して、テキストを見ながら一文を音読する。目安は一文につき 5 回。
- ④ **Recitation**: ^{暗誦}③の Workout の後すぐに、テキストは見ないで声を出して暗誦する。目安は一文につき 10 回。
- ⑤ **Dictation**: ^{書き取り}④が終わった後、日を改めて行う。英文一本が流れ終わったら、丸ごと書き取る。書き取ったものをテキストと照合して、つづりの間違いなどがないかを確認する。

以上の Workout が終わった後で、宿題として出されているテキストの問題を解いてください。必要なことが頭に入っているので、スラスラと解けるはずです。